

森の生きもの

陽気なさえずりで自らの存在を知らせる三瓶山の鳥たちとは異なり、人前に姿を現さない山の生き物たちがたくさんいる。多くは夜行性で日中は眠っており、シカやツキノワグマは山の奥深くにいて人を避けている。

三瓶山地域の生物の多くが日本固有種だ。姫野ヶ池近辺でよくみられるモリアオガエルは、水面上にせり出した木の枝の上に泡で包まれた卵塊を産みつける。孵化したオタマジャクシは泡の塊から放たれ池へと落ちる。別の固有種であるテンは、白っぽいオレンジの毛皮を持つ雑食性の哺乳類だ。木登りが得意で日中は樹洞内の巣で眠っている。夜になると、鳥や齧歯類を狩るが、昆虫や木の実も食べる。

三瓶山の森には他にも多くの生物が棲んでいる。たとえばキツネは多くの国で共通であるように、ずるがしこく立ち回る。欧州やアジアの一部に生息する夜行性のフクロウは、獲物が立てる音をしっかりとキャッチできるように顔が曲線状になっていて、音もたてずに獲物を狩る。

ツキノワグマも、島根県を含む中国地方の人里離れた森に生息している。一般に他の熊よりも小さいが、名前の通り、白い三日月状の斑紋が胸の部分にある。それがツキノワグマの名前の由来である。主に草、果実、木の実、小動物、昆虫、動物の死骸などを食べる。冬の間ツキノワグマは大きな樹洞や川岸の土手に掘られた穴で冬眠する。